

ウィンタースクールを開催しました。

## 「昔の遊び、凧づくりに挑戦しよう！」

1月11日（金）ウィンタースクール「昔の遊び、凧づくりに挑戦しよう！」を参加者11名で実施しました。

童謡「お正月～もういくつ寝るとお正月、お正月には凧揚げて～」とあるように、凧上げは、昔の子どもたちの遊びの定番でした。

凧の歴史、凧上げをする意味や由来を説明した後、六角製の和凧を作成しました。和紙に絵を描き、骨組みの竹ひごを付け、糸で補強します。細かい作業がたくさんあり、悪戦苦闘しましたが、参加者全員思い思いの凧が完成しました。



## ジオ・フェスティバル in Kushiro 2018に出展しました。

1月13日（日）釧路市遊学館で開催された「ジオ・フェスティバル in Kushiro2018」に参加しました。道内各地から地学を中心とした自然科学のブースが設けられ、約800人の入場がありました。当館は、「野付半島沖で発見されたマンモズゾウ臼歯化石と根室市ガッカラ浜で見られる巨大津波の痕跡」の展示ブースにより国内では12個しか発見されていない、マンモズゾウ臼歯化石のレプリカやパネル、過去3800年間に起こった巨大津波の痕跡を残す根室市ガッカラ浜の土層のはぎ取り資料を展示しました。

なかでも、巨大地震が起こる可能性が高い当地方であることから、巨大津波の痕跡を残す土層剥ぎ取り資料は、沢山の方々が見学していました。

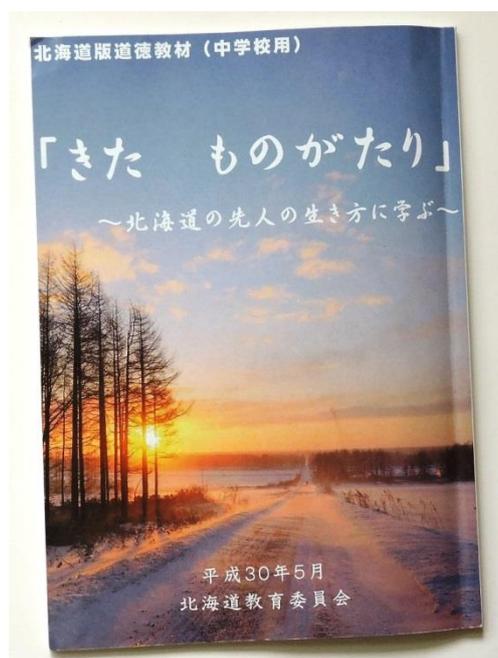


## 加賀伝蔵が、北海道版道徳教材(中学校用)に掲載されました。

北海道教育委員会が平成30年5月に刊行した「北海道版道徳教材(中学校用)きたものがたり～北海道の先人の生き方に学ぶ～」に加賀家文書のほとんどを書き残した「加賀伝蔵」が掲載されました。

幕末に秋田県八森から幼少の頃より蝦夷地にわたり、場所請負人の下で働き、アイヌの人たちと共に生きた加賀伝蔵の生涯は、アイヌ民族を理解し、共に未開の地である蝦夷地をより良いものに開拓していこうとする意志がありました。

文章などは、根室管内道徳教育研究会の方々が作成しました。図書館、北海道教育委員会ホームページでご覧になることができます。



## ・学芸員のひとごと

1月に凧づくりを実施して、凧の歴史について少し調べました。2400年前に中国で軍事目的の通信手段で「紙鳶」(しえん=紙・トビ)と呼ばれ、日本では、平安時代に伝わり以降貴族の遊び、戦国時代には、軍事目的として使われていたようです。江戸時代には、庶民的な遊びとなり大流行し、トラブルが続出し禁止令が出たそうです。その当時「イカ上げ」と呼ばれていて、庶民がイカに対してタコだと言ったのが、現在の凧上げの名前の由来の一つだそうです。

いずれにしても童謡にあるように、お正月に凧上げをしている子供たちの姿は、ほとんど見る事が出来ません。時代の流れかと思いますが、風に乗せて高く上がる凧を操作するのは、とても気持ちのいいものです。

<p>別海町郷土資料館だより No.235                  発行日 平成31年2月1日                  発行所 別海町郷土資料館                  別海町別海宮舞町 30 番地                  電話 0153-75-0802 (FAX 兼)                  e-mail kyoudo@betsukai.jp</p>	<p>編集後記                  少なかった雪も例年並みに降り、冬を実感します。オジロワシ・オオワシもシベリアから渡来し良く見かけます。晴天の日が続くので、空と雪のコントラストが綺麗です。寒いけど季節を感じるのは、気持ちのいいことかと思えます。(石渡)</p>
--	--